あつし塾長の

子のやる気 親の気づき

○○4

第1章・ゆとり教育世代の子どもの文化

自由と所有権

臓器移植も自分で決断

いつのころからか「校則違反で体罰」という報道を見かけなくなり、そういえばこの2、3年はまゆ毛を剃（そ）ったり、髪の毛を染めたりする校則違反の中学生を街中で見かけなくなりました。

数年前、校則に違反してまでピアスをつけて街中を歩いていた中学生がいたころ、中3の塾生に「自分の体に穴をあけるとき誰に相談するか」と聞いてみたことがありました。クラスの過半数が自分で決めると答え、自分の体は自分のものだから自由だと主張していました。

「では、臓器移植はどうだろうか…」と続けて聞きました。すると全体が静まりかえり「う～ん」と考え込みました。そして、大半が「相談する」と答え、その約半数が「親に相談する」と答えました。ところが、去年と今年、中3の塾生に同じ質問をしてみて驚きました。ほぼ全員が「自分で決める」と答え、相談すると答えた数人の相談相手は、なんと「友達」で、「親」と答えた子はいなくなってしまったのです。

子どもの自由は成長とともに「所有権」とのかかわりが大切になります。自分のものなら自分の自由にできるという考えから、自分の髪の毛を染め、自分のまゆ毛を剃ります。ピアスをしている子どもたちは「耳たぶはフツウだし、大人もやっている」と言うかもしれません。おしゃれとカッコつけ、そして反抗期もあるでしょう。自分の唇、自分の鼻は自分のものだから…。

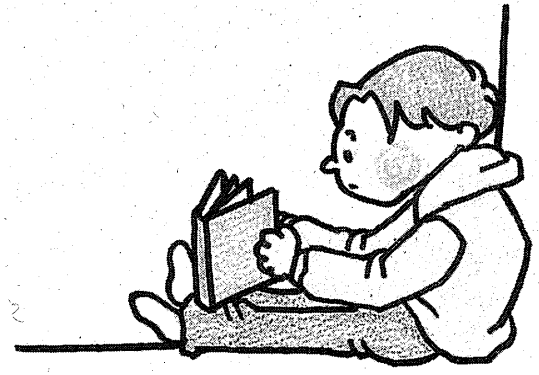
しかし、臓器移植となったら、まゆ毛や髪の毛と同じには語れないと考えるものではないでしょうか。誰かに話してみようか、誰かに相談しようかという戸惑いや、その相手は友達で良いのかという疑問を、今の子どもたちは感じなくなってきているのでしょうか。

最近、子どもの反抗期が軽くなってきている気がします。反抗期はあって当たり前と意識し、親子でぶつかり合うことを覚悟して、親の信念や経験を伝えることが大切かもしれません。

「自分の体は果たして誰のものなのか」という難題に向き合う機会を親が意識してつくらなければ、今の子どもたちは「自由と所有権」について悩むことなく成長してしまうのかもしれません。親の心持ち一つで、揺らぐことのない親子の絆（きずな）になって行くのだと思います。

（畑山篤＝志学塾塾長）

覚悟し伝えたい親の信念



by yoriko

甘えさせることが大切

「甘えは子育児書「子話す明橋大

育児書「子ピーアドバ万年堂出版で、心療内科大二さんは、悩む母親らの を続けていぐらいまでは甘えさせる。いることを知もはいい子と、甘えの大える。

もともと子

ニュース なぜなに

教育

米軍普天間飛行場の移設

政府、今の案ふくめ検討

地の一つです。ヘリコプターや飛行機が訓練をくり返し、地元の人は墜落（ついらく）の危険や騒音（そうおん）ととなり基地を造る準備が、おくれているためです。

・日本と米国は同県名護市沿岸の海をうめ立て対する候補が当選しました。首相は地元の声にも耳をかたむける考えを示しています。

政府は、今の案もふくめて、移設先を検討しています。ただ、米国の案が一番良いと話しており、理解してもらえるかどうかは分かりません。